

発想の転換で カスタマイズする



的連絡から授業各回の予告に至るまで漏らさず伝わるよう、詳細にアップします。学生が必ず目を通すよう、初期段階でリマインダーの設定も徹底させます。

「ひとつの明確な目的は、教育内容に関わる挙証です。それを措いても、細々としたことも含めて掲出されている情報を見る習慣は、確認漏れによる本人の損失や教員の手間を抑えると共に、何よりそれ自体が教育効果に他ならないのです」。

さらに注意を引くため、情報の重要度を星印で表示。例えば「卒業論文関連 提出締め切り前の最終の連絡」という告知タイトルには星3つ。ここにも独自の工夫とカスタマイズが見られます。

アンケートとコンテンツで相互学習

アンケート機能の活用もかなり特徴的です。卒業論文の途中経過報告等のプレゼンテーションにあたっては、題目と概要がアンケートのページで事前に公開されます。発表を聞いた学生は授業内で紙ベースの簡単な感想を書いて提出しますが、紙面は即座にスキャンして返却され、学生はこれをメモ代わりにしてオンラインでコメントを「清書」します。提出締め切りは、その週の土曜日23時。アンケート機能を用いて回収された感想コメントは、投稿者名を匿名にした上で翌週、コンテンツとして掲載され、それを読んだ発表者は数週間以内に回答、反論、追加情報等を用意することが求められます。これは「応接コメント」と呼ばれ、ここまでのプロセスを経て、ひとつのプレゼンテーションが完結するのです。

学生同士でコメント力を高め合う

「他の学生の発表に対してコメントするには、それなりの能力が求められます」とい

レポート機能で

個人通信欄を開設

上田先生のゼミで最初に課されるのは、レポート機能を利用したエントリー。要は受講意思をシンプルに届け出るだけですが、期限は翌年の3月31日で、それまでの間、コメント欄を利用した「個人別通信コーナー」が稼働するのです。

「一対一の対話が繋がり、同じスレッドをずっと続けて使えるよう、僕なりにカスタマイズしました」。

多い学生では、年間で200近くのコメン

トのやり取りがあったといいます。

「内容ごとにスレッドを立てるという考えもあると思いますが、卒業論文の経過報告の合間に就職活動の相談が入ったりした方が個々のつながりは濃厚。教員と学生の対話の記録が残るというのが、大きなメリットですね」。

重要度の高いニュースは★★★★

一方、ゼミ生全員への告知にはコースニュースを頻繁に利用。ルーチンの事務

個人別通信コーナー:専門演習I・IILC/人文総合科学演習III E/国際プログラム演習 IIPG 2014年度

提出者本人と教員のみ閲覧・コメント可のレポート

課題に関する説明

「レポート」のかたちをとって「出題」されますが、履修は、そのコメント欄を利用した通信です。

(「締切」として設定可能な期限 2015-03-31 23:55までの間、教員と各学生の間の一対一の掲示板として機能させます。)

33
ありがとうございます！
また相談させていただきます。

34
卒論未完成.docx - 2014-12-02 16:33:02
まだ途中なのですが・・・
木曜日の面談を希望します。
木曜日までに最後まで書き上げます！！

35
木曜日、押さえました。

※送ってきたのは本データ？
どっちにせよ、このち
おおいに書き進むのだからけど、
持参紙面上に分かるように
指示してください。
(できれば「先」に、とか、
「要約」の第一稿とか...))

コースニュース一覧

タイトル	投稿者	公開日時
本日の面談予定に	上田 高弘	2014-10-27 09:50
★★★文献課題プレゼン日程表★★★	上田 高弘	2014-10-29 01:15
★★★来週分にかかわる緊急告知★★★	上田 高弘	2014-10-21 17:40
今週と来週のゼミ	上田 高弘	2014-10-20 18:30
重要な注記	上田 高弘	2014-10-18 13:50
(正式告知)「卒業指導のための集中面談ウィーク」の調整	上田 高弘	2014-10-18 13:30
(予告)卒業論文提出予定者の集中面談ウィークについて	上田 高弘	2014-10-17 14:30
★★★締切迫る！ 卒論題目提出★★★	上田 高弘	2014-10-15 22:00
今日の授業	上田 高弘	2014-10-14 06:40
明日の授業 - その1	上田 高弘	2014-10-13 18:45

1 専門演習の学生のレポートコレクション画面です。レポートコレクションのコメント欄を用いて、教員と3・4年生の学生個々に連絡や論文についてのコメントをやり取りしています。

2 専門演習のコースニュース一覧画面です。上田先生は、1年間でコースニュースを80件登録しています。コースニュースを教員が登録するとリマインダメールでお知らせが届くため、履修生全員がリマインダを設定しています。

う言葉通り、毎回、感想コメントを書く作業は学生にとってハード。その分、緊張感を持って短時間で書く力と、じっくり考えて書く力の、両方が養われます。同時に、人の文章を読んで、自らに足りない点を省みることも、文章力アップには効果的。

「学生同士が教え合う、ピア・エデュケーションですよ」。

現に、質問を受け、応接コメントを出すために発表者が調べた内容が、卒業論文を完成させる上で重要なコンテンツになってくるとも決して珍しくないのだとか。

「本当は、匿名にせず実名のまま感想コメントを掲出し、つまり無加工で閲覧できるようにする方が簡単です。ただ、そうすると知った者同士の遠慮も出てきます。私情をばさず、節度ある有意なメッセージを発信

するためのトレーニングとして、かなりの効果を上げていると自負しています」。

緊急措置で得た予想外の効果

当初、比較的大人数となるゼミを効率的に運用する緊急措置として活用し始めた、というアンケート機能。発言者が限られてしまう教室内ディスカッションでは表に出にくい声も拾うなど、多くの効果が得られたといいます。「僕の使い方はアナログ」と笑いつつ、「学生に及ぼした効果を考えたら、もう使っていないころには戻りませんね」と語る上田先生。用途を限定せず、機能をカスタマイズするmanaba活用法が際立っていました。

授業規模

大規模

中規模

小規模

授業形態

講義

演習・実習

語学

manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席